

⑧ 「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
コンピューターリテラシー	2	○	○	○	○						
情報化社会と技術	2	○		○							
基礎統計学 I	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット「コンピューターリテラシー」(1回目・15回目)、「情報化社会と技術」(13回目・15回目) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「コンピューターリテラシー」(1回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「コンピューターリテラシー」(1回目) ・複数技術を組み合わせたAIサービス「コンピューターリテラシー」(1回目) ・人間の知的活動とAIの関係性「コンピューターリテラシー」(1回目) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「コンピューターリテラシー」(1回目)
	1-6	<ul style="list-style-type: none"> ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)「情報化社会と技術」(15回目) ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など)「情報化社会と技術」(15回目)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「情報化社会と技術」(1回目・5回目) ・1次データ、2次データ、データのメタ化「情報化社会と技術」(1回目・5回目) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)「情報化社会と技術」(1回目・5回目) ・データ作成(ビッグデータとアノテーション)「情報化社会と技術」(1回目・5回目) ・データのオープン化(オープンデータ)「情報化社会と技術」(1回目・5回目)
	1-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「情報化社会と技術」(12回目) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「情報化社会と技術」(12回目) ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など「情報化社会と技術」(12回目)
(3) 様々なデータ活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	<ul style="list-style-type: none"> ・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など「情報化社会と技術」(13回目) ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など「情報化社会と技術」(13回目) ・非構造化データ処理: 言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など「情報化社会と技術」(13回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「情報化社会と技術」(13回目) ・認識技術、ルールベース、自動化技術「情報化社会と技術」(13回目)
	1-5	<ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「情報化社会と技術」(2回目・4回目・14回目) ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介「情報化社会と技術」(14回目)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ELSI(Ethical, Legal and Social Issues)「情報化社会と技術」(10回目) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「情報化社会と技術」(10回目) ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「情報化社会と技術」(10回目) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「情報化社会と技術」(10回目) ・データバイアス、アルゴリズムバイアス「情報化社会と技術」(10回目) ・AIサービスの責任論「情報化社会と技術」(10回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介「情報化社会と技術」(10回目)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ: 機密性、完全性、可用性「情報化社会と技術」(10回目) ・匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取「情報化社会と技術」(10回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「情報化社会と技術」(10回目)
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データの種類(量的変数、質的変数)「基礎統計学 I」(1回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「基礎統計学 I」(1回目) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い)「基礎統計学 I」(1回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)「基礎統計学 I」(2回目) ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)「基礎統計学 I」(3回目) ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出)「基礎統計学 I」(1回目) ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列「コンピューターリテラシー」(8回目)、「基礎統計学 I」(2回目) ・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「基礎統計学 I」(2回目)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)「コンピューターリテラシー」(6回目・7回目・8回目)、「基礎統計学 I」(2回目) ・データの図表表現(チャート化)「コンピューターリテラシー」(6回目・7回目・8回目)、「基礎統計学 I」(2回目) ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「コンピューターリテラシー」(6回目・7回目・8回目) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「情報化社会と技術」(12回目・13回目・14回目・15回目)、「基礎統計学 I」(2回目)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データの集計(和、平均)「コンピューターリテラシー」(6回目・7回目・8回目)、「基礎統計学 I」(1回目) ・データの並び替え、ランキング「コンピューターリテラシー」(6回目・7回目・8回目)、「基礎統計学 I」(1回目) ・データ解析ツール(スプレッドシート)「コンピューターリテラシー」(6回目・7回目・8回目) ・表形式のデータ(csv)「コンピューターリテラシー」(7回目・8回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

現代社会において必須となるAIやビッグデータを活用する知識やスキルを、情報科学やコンピューター工学、統計学といった学術的な視点から学ぶ。大学生あるいは社会人としてコンピューターやネットワークを学術的、実践的に使いこなし、様々なデータに対して正しい知識と解析技術をもって妥当な解釈を得る能力を身に着ける。

具体的には、PCの基本的な操作、応用ソフトウェアを用いた文書作成、表計算、プレゼンテーション作成、インターネットを用いた情報収集、分析など、コンピューターを用いて学術的な活動を行うための基礎スキルを身に着ける。

また、データサイエンスとAIの基礎理論として、情報を処理する仕組み(コンピューターの仕組みとハードウェア)と情報の表現(コンピューテーションとデータ)、情報の計算(プログラミング)と情報の伝達(ネットワークとWWW)を理解し説明できるようになる。また、データとAIの利活用について説明できるようになる。

さらに、標本であるデータの構造を理解する手法として記述統計を基礎とした解析法を学び、基本統計量を用いて標本データの整理法を理解できるようになる。データ構造を理解し、加工や集計しながら傾向をとらえて適切に表現し説明できること、確率的思考をもとに確率分布や正規分布を理解しデータとの関係を説明できること、標本と母集団の関係を正しく理解し標本分布を応用し説明できることを目指している。

プログラムを構成する3科目は、3学群共通の基盤教育科目として「フレッシュマンコア(全学必修科目群)」に位置付けられており、本学生として学術的実践的に研究やPBLを行う必須の知識やスキルであり、フレッシュマンコア科目であるスタートアップセミナー(導入科目)や地域フィールドワークなどと科目連携しながら学びを深めるカリキュラム構成となっている。

プログラムを通して、大学生として学術的な目的においてコンピューターとネットワークを使いこなすようになり、その背後にあるハードウェア、ソフトウェア、及び通信の理論を学ぶことで、「なぜそうなっているのか」を理解し、情報化社会での生き方を模索できるようになる。また、記述統計と推測統計の初歩を学ぶことにより、将来のAIの利活用及び開発のための基礎を固める。履修生は数理・データサイエンス・AIが駆動する世界に参画するための基礎的な素養を身につける。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容
<p>プログラム必修科目「情報化社会と技術」のなかで、AIの活用領域やそのための技術、最新動向について講義し、実際に演習を交えながら理解を深める講義を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「情報化社会と技術」(10回目) ・AIサービスの責任論「情報化社会と技術」(10回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介「情報化社会と技術」(10回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「情報化社会と技術」(13回目) ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「情報化社会と技術」(14回目) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)「情報化社会と技術」(15回目) ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など)「情報化社会と技術」(15回目)

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和4 年度

②大学等全体の男女別学生数 男性 569 人 女性 1259 人 (合計 1828 人)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数										
看護学群	408	95	380	96	94	102	100									198	52%
事業構想学群	872	200	800	214	208	210	201									424	53%
食産業学群	548	125	500	132	127	137	136									269	54%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合計	1,828	420	1,680	442	429	449	437	0	0	0	0	0	0	0	0	891	53%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

- ① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人
- ② プログラムの授業を教えている教員数 人
- ③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)
- ④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

 (責任者名) (役職名)
- ⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称
- ⑥ 体制の目的
- ⑦ 具体的な構成員

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	53%	令和6年度予定	75%	令和7年度予定	100%
令和8年度予定	100%	令和9年度予定	100%	収容定員(名)	1,680
具体的な計画					
<p>このプログラムを構成する3科目「コンピューターリテラシー」、「情報化社会と技術」、「基礎統計学Ⅰ」は、基盤教育科目の全学1年次必修科目として令和4年度に開設され、令和7年度に履修率100%になる見込み。令和5年度の履修率実績、令和6年度以降の履修率目標は上記のとおりである。</p>					

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

<p>プログラムを構成する3科目とも、1年次の全学必修科目として入学時履修ガイダンスを行っている。また、全学必修科目のため、学群ごとにクラス編成を行い全員が履修可能な時間割配置を行っている。履修登録については、登録漏れの無いよう、事務局にてクラスごとに登録を行っている。なお、単位未修得学生(再履修生)には2年次以降、各専門課程での講義時間と重複しないようにクラス配置をし、場合によっては他学群の授業を履修できるように配慮している。</p> <p>各科目の授業運営体制は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピューターリテラシー(看護学群1クラス100名、事業構想学群2クラス各100名、食産業学群2クラス各65名程度) 担当は各学群の専任教員+ティーチングアシスタント3名 ・情報化社会と技術(看護学群1クラス100名、事業構想学群2クラス各100名、食産業学群2クラス各65名程度) 担当は各学群の専任教員+ティーチングアシスタント1名 ・基礎統計学Ⅰ(看護学群2クラス各50名、事業構想学群2クラス各100名、食産業学群2クラス各65名程度)

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

<p>プログラムを構成する3科目とも1年次の全学必修科目であり、クラス編成や時間割配置上も履修しやすい配慮を行っている。</p> <p>年度当初のオリエンテーションにおいて、本プログラムについて説明する時間を設け、入学時に配布する「履修ガイド」及び毎年度配布する「履修の手引き」を用いて科目の位置付けや内容を説明している。また、学内WEBのポータルサイト「MYUpedia」や学務管理システム「キャンパスプランポータルサイト」において、学年歴や時間割、クラス分けや担当教員及びその連絡先を周知し、大学WEBサイトでも公表するなど、随時必要な情報を公開している。クラスごとのLMSでは各回の講義に関する情報や教材の配布、課題の回収などを行っている。</p>

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本プログラムを構成する3科目とも、クラス担当を学生の所属学群専任教員又は基盤教育群教員が担当し、履修生の学修状況を把握しやすい体制としている。また、科目ごとに責任教員を置き、共通シラバスや成績ルーブリックの作成、教育方法や進捗についてクラス間の調整、共通の教科書や教材の選定などを行い、担当教員ごとに差が生じないように配慮している。さらに、クラスごとに学生ティーチングアシスタントを配置し、授業時間中のサポートやメール等で質問を受けやすい環境を整えたり、学内のコモンズ環境で担当教員が補講をしたり質問を受けたりする時間をとるなどサポート体制を整えている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

学内のコモンズ環境である「スチューデントコモンズ」では、対面で当該科目に関する補講や質問を受け付ける機会を設けたり、「データ&メディアコモンズ」では基礎的なPC操作やMicrosoft Officeの操作サポートなどを受け付けている。また、担当教員が、随時、メール、LMS等の方法で質問を受け付けて、学生の主体的な学びを促している。

なお、令和6年度よりさらなる学修支援に向け、シラバス内に教員への質問方法等を明記することとしている。

大学等名 宮城大学

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

カリキュラムセンター

(責任者名) 蒔苗耕司

(役職名) カリキュラムセンター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本教育プログラムを構成するすべての授業科目が必修科目であるため、令和4年度入学生以降、本学の全学群で1年次履修率はほぼ100%である。</p> <p>また、修得に関しても、単位未修得での卒業(全学群)ができないため、95%を超える状況となっている。これまでの本プログラムの履修者数、修了者数は、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度 履修者数 449名 修了者数 437名(97.3%) ・令和5年度 履修者数 442名 修了者数 429名(97.0%)
学修成果	<p>学期末に学生による授業評価アンケートを実施し、その結果を基に科目責任教員が科目の運営や成績分布、到達目標について検証及び考察し、次年度実施に向けた授業改善計画を策定している。各科目の授業改善計画は全学カリキュラムセンターが内容をチェックし、大学WEBサイトにおいて、科目ごとのアンケート結果と合わせて公開している。</p> <p>また、成績についてはクラス担当教員と科目責任教員による成績の確認を経た後、成績認定を行う基盤教授会において大学共通で定められている成績ガイドライン(成績の分布など)に適合しているか確認される。</p> <p>令和4年度及び令和5年度の成績評価において、各科目とも履修生の5~6割以上が80点以上と優秀な水準であり、到達目標に対して適切に学修成果を得ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度 成績(80点以上の割合) コンピューターリテラシー 57.6%、情報化社会と技術 66.8%、基礎統計学Ⅰ 58.6% ・令和5年度 成績(80点以上の割合) コンピューターリテラシー 59.0%、情報化社会と技術 62.6%、基礎統計学Ⅰ 54.0%
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>学期末に行う学生による授業評価アンケートを通じて、授業内容に対する学生の授業目標到達度を把握している。学生にとっては授業評価アンケートを入力しないと自己の当該学期の成績が表示されないシステムになっているため、アンケート回収率は毎回100%に近い高い回収率を保持している。</p> <p>アンケートは、授業計画、授業方法、目標到達度、授業外の学習時間など計9項目について評価尺度を用いた設問になっており、全学平均値と比較したチャートを用いて教員と学生にフィードバックしている。併せて自由記述欄を設け、授業の良かった点、改善点、その他意見などの項目で授業改善計画に反映させている。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>授業評価アンケートの実施し、結果を数値化して授業改善計画と共に大学WEBで公開しており、対象科目について満足度・他の学生への推奨度共に概ね良好な評価を得ている。また、授業改善計画のなかで自由記述の意見をピックアップして教員がコメントを記載することになっており、学生に対しても受講状況が把握できる情報を提供している。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>初年次教育フレッシュマンコア科目の全学必修科目に含まれているため、特に履修率向上に向けた計画の策定は行っていない。</p> <p>このプログラムを構成する3科目「コンピューターリテラシー」、「情報化社会と技術」、「基礎統計学Ⅰ」は、基盤教育科目の全学1年次必修科目として令和4年度に開設され、令和7年度には履修率100%となる計画となっている。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>令和7年度以降の卒業生に向けた卒業生調査において、本プログラムを修了した卒業生の進路先や活躍状況の把握を行うよう検討している。また、就職先を中心とした企業調査の仕組みを活用して、本教育プログラムを修了した卒業生の採用状況や企業からの評価を把握する仕組みを構築していく。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>本学就職担当部局のキャリア開発室における調査ヒアリングにおいて、特に統計解析スキルは分野を問わずに必須項目であり、多くの企業や組織団体から、「統計解析ができる・得意な」人材が必要であるという声を聞いている。簡単な基本統計量だけでなく、データの整理と可視化、分布と分散の扱いや評価、推測統計の活用法は実社会において求められていると認識している。本学は1年次から必修としており、その後の応用科目も選択性で開講しており、数理統計に関する教育プログラムに力を入れているが、学生の高校時代に身に着けているべき統計知識やPCスキルの力量差が大きく、基礎から指導する局面が多い。重要なことは、統計データを適切な手法で処理し、解釈を行って結論を導き出せる力量を学生が身に付けられるようにすることであり、しっかりと統計理論を理解させ、その上で解析技術を使ってその結果を正しく解釈できるようになることが理想である。また、力量の評価に「統計検定」などを利用することも検討を進めている。</p> <p>また、企業や団体で実務経験のある実務家教員が科目を担当しており、産業界のニーズや技術革新にキャッチアップする体制としている。さらに今後は、本学で進めている社会人向けリカレント教育プログラムや高校生向けのDX教育プログラムと連動させることで、一貫した生涯キャリアを意識した教育プログラムへと位置づけていく。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>本学では入学者全員がノートPCを購入し学内ネットワークに接続してLMS等を活用する「BYOD (Bring Your Own Device) 制」をとっており、自己PCの管理や情報スキル、基本アプリケーションの操作は本学における学修上必須のものとなっている。本プログラムにおける修得内容が、現代社会においてどのような価値・位置づけになるかを説明するとともに、それぞれの学群学類における専門教育での応用的な展開についても説明をし、本プログラムを学ぶことの意義を理解させている。</p> <p>また、講義の中で演習やグループワークなど一部アクティブラーニングを取り込んで興味関心を促すとともに、各学群の専門性に即した最先端の事例などを紹介することで本プログラムの意義を理解させる。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>授業時間内に演習やグループワークを取り入れるなど、理解度や進捗を都度自分で確認できる授業方法をとるとともに、授業時間外学習についてもシラバスに記載したうえ、定期的な課題などにより到達度を確認している。クラスの枠にかかわらず科目全体として課外の補習や個別の質問受付を行っている。</p> <p>学期末の学生による授業評価アンケート(クラスごと)の結果を受けて、クラスごとの教育方法の状況や効果を共有するとともに、科目ごとに授業改善計画をたて、それを担当教員間で共有するとともに、大学WEBサイトで公開している。また基盤教育群教授会でアンケート結果や授業改善計画を確認、チェックしている。</p> <p>科目ごとに複数クラスがありそれぞれクラス担当教員がいること、各学群から実務家教員も含めた多様なバックグラウンドの教員チームとなっていることから、各教員の教育方法の工夫や、グッドプラクティス、各分野の最新動向の共有などによって、授業改善につなげている。</p>

シラバス参照

講義名	コンピューターリテラシー（看護）
ナンバリング	（基盤）FA-IFST101
Course	Computer Literacy
対象学科	全学群（必修）
年次・学期・単位	1年次／前期／2単位（必修）

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 萩原 潤	

授業概要	コンピューターとネットワークの自立した利用者としての基礎的な知識と技能を修得する。情報サービスの利用、調査やレポート、プレゼンテーションなどを学術的な活動として行うために必要な、情報を利用するための技能を獲得する。具体的には、オペレーティングシステムの操作方法、ネットワークとセキュリティ、応用ソフトウェアとしてワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーションを、実習を通じて習得する。更に、WWW、AI、IoT、デジタルファブリケーションの基本を学ぶ。
ディプロマポリシー（DP）との関連	【知識・技術：◎】 【思考力・判断力：○】 【表現力：○】 【主体性：○】 【協働性：△】
到達目標	[1] PCの基本的な操作ができる。 [2] 応用ソフトウェアを用いて文書作成、表計算、プレゼンテーションができる。 [3] ネットワーク、セキュリティ、AI、IoT、デジタルファブリケーションを説明できる。

授業計画	
回	内容
第1回	導入、社会で起きている変化、PCの基本設定
第2回	PCの操作方法、ウェブサービスの利用（アカウント、メール、SNS、情報の調べ方）
第3回	文書作成（1）Microsoft Wordの利用方法
第4回	文書作成（2）Microsoft Wordの高度な利用方法
第5回	文書作成（3）文章作成の実践
第6回	表計算（1）Microsoft Excelの利用方法
第7回	表計算（2）Microsoft Excelの高度な利用方法
第8回	表計算（3）Microsoft Excelの実践
第9回	プレゼンテーション（1）Microsoft PowerPointの利用方法
第10回	プレゼンテーション（2）Microsoft PowerPointの高度な利用方法
第11回	プレゼンテーション（3）プレゼンテーションの実践
第12回	Webページの構造（HTML、CSS、JavaScript）
第13回	HTMLの基本
第14回	CSSの基本
第15回	AI、IoT、デジタルファブリケーション
第16回	期末試験（レポート）

評価方法・評価基準	授業中に適宜課すレポート（60%）、及び期末試験（40%）の評価を合計し到達目標に対する達成度を評価する。詳細な評価項目については、初回講義時にルーブリック（評価基準表）により示す。
教科書	奥村晴彦、森本尚之『基礎からわかる情報リテラシー』〔改訂第4版〕技術評論社、2020年。ISBN 978-4-297-11710-8 https://gihyo.jp/book/2020/978-4-297-11710-8
参考書	東京大学 数理・情報教育研究センター 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム リテラシーレベル教材 http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/6university_consortium.html
他の科目との関連	本科目は情報技術に関連するすべての科目の基礎となる。
授業時間外学習	予習：事前に教科書を読み関連する情報を調査し内容を把握すると授業時の理解が深まる。 復習：事後には自分の関心に合わせ講義時で示した内容を復習し理解を定着させること。
Course Description	Computer Literacy, Internet, Application Software.
Teaching staff	SUGURI, Hiroki/SUZUKI, Yu/HAGIHARA, Jun/KONYA, Naoki/GOTO, Isao
実務経験のある教員	須栗裕樹、後藤勲
実務経験をいかした教育内容	実務経験のある教員とない教員が混在しているため、実務経験をいかした教育はしない。

シラバス参照

講義名	コンピューターリテラシー（事業）①	
ナンバリング	（基盤）FA-IFST101	
Course	Computer Literacy	
対象学科	全学群（必修）	
年次・学期・単位	1年次／前期／2単位（必修）	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 須栗 裕樹	
授業概要	コンピューターとネットワークの自立した利用者としての基礎的な知識と技能を修得する。情報サービスの利用、調査やレポート、プレゼンテーションなどを学術的な活動として行うために必要な、情報を利用するための技能を獲得する。具体的には、オペレーティングシステムの操作方法、ネットワークとセキュリティ、応用ソフトウェアとしてワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーションを、実習を通じて習得する。更に、WWW、AI、IoT、デジタルファブリケーションの基本を学ぶ。	
ディプロマポリシー（DP）との関連	【知識・技術：◎】【思考力・判断力：○】【表現力：○】【主体性：○】【協働性：△】	
到達目標	[1] PCの基本的な操作ができる。 [2] 応用ソフトウェアを用いて文書作成、表計算、プレゼンテーションができる。 [3] ネットワーク、セキュリティ、AI、IoT、デジタルファブリケーションを説明できる。	
授業計画		
回	内容	
第1回	導入、社会で起きている変化、PCの基本設定	
第2回	PCの操作方法、ウェブサービスの利用（アカウント、メール、SNS、情報の調べ方）	
第3回	文書作成（1）Microsoft Wordの利用方法	
第4回	文書作成（2）Microsoft Wordの高度な利用方法	
第5回	文書作成（3）文章作成の実践	
第6回	表計算（1）Microsoft Excelの利用方法	
第7回	表計算（2）Microsoft Excelの高度な利用方法	
第8回	表計算（3）Microsoft Excelの実践	
第9回	プレゼンテーション（1）Microsoft PowerPointの利用方法	
第10回	プレゼンテーション（2）Microsoft PowerPointの高度な利用方法	
第11回	プレゼンテーション（3）プレゼンテーションの実践	
第12回	Webページの構造（HTML、CSS、JavaScript）	
第13回	HTMLの基本	
第14回	CSSの基本	
第15回	AI、IoT、デジタルファブリケーション	
第16回	期末試験（レポート）	
評価方法・評価基準	授業中に適宜課すレポート（60%）、及び期末試験（40%）の評価を合計し到達目標に対する達成度を評価する。詳細な評価項目については、初回講義時にルーブリック（評価基準表）により示す。	
教科書	奥村晴彦、森本尚之『基礎からわかる情報リテラシー』〔改訂第4版〕技術評論社、2020年。ISBN 978-4-297-11710-8 https://gihyo.jp/book/2020/978-4-297-11710-8	
参考書	東京大学 数理・情報教育研究センター 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム リテラシーレベル教材 http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/6university_consortium.html	
他の科目との関連	本科目は情報技術に関連するすべての科目の基礎となる。	
授業時間外学習	予習：事前に教科書を読み関連する情報を調査し内容を把握すると授業時の理解が深まる。 復習：事後には自分の関心に合わせ講義時で示した内容を復習し理解を定着させること。	
Course Description	Computer Literacy, Internet, Application Software.	
Teaching staff	SUGURI, Hiroki/SUZUKI, Yu/HAGIHARA, Jun/KONYA, Naoki/GOTO, Isao	
実務経験のある教員	須栗裕樹、後藤勲	
実務経験をいかした教育内容	実務経験のある教員とない教員が混在しているため、実務経験をいかした教育はしない。	

シラバス参照

講義名	コンピューターリテラシー（事業）②
ナンバリング	（基盤）FA-IFST101
Course	Computer Literacy
対象学科	全学群（必修）
年次・学期・単位	1年次／前期／2単位（必修）

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 鈴木 優	

授業概要	コンピューターとネットワークの自立した利用者としての基礎的な知識と技能を修得する。情報サービスの利用、調査やレポート、プレゼンテーションなどを学術的な活動として行うために必要な、情報を利用するための技能を獲得する。具体的には、オペレーティングシステムの操作方法、ネットワークとセキュリティ、応用ソフトウェアとしてワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーションを、実習を通じて習得する。更に、WWW、AI、IoT、デジタルファブリケーションの基本を学ぶ。
------	---

ディプロマポリシー（DP）との関連	【知識・技術：◎】 【思考力・判断力：○】 【表現力：○】 【主体性：○】 【協働性：△】
-------------------	---

到達目標	[1] PCの基本的な操作ができる。 [2] 応用ソフトウェアを用いて文書作成、表計算、プレゼンテーションができる。 [3] ネットワーク、セキュリティ、AI、IoT、デジタルファブリケーションを説明できる。
------	--

授業計画

回	内容
第1回	導入、社会で起きている変化、PCの基本設定
第2回	PCの操作方法、ウェブサービスの利用（アカウント、メール、SNS、情報の調べ方）
第3回	文書作成（1）Microsoft Wordの利用方法
第4回	文書作成（2）Microsoft Wordの高度な利用方法
第5回	文書作成（3）文章作成の実践
第6回	表計算（1）Microsoft Excelの利用方法
第7回	表計算（2）Microsoft Excelの高度な利用方法
第8回	表計算（3）Microsoft Excelの実践
第9回	プレゼンテーション（1）Microsoft PowerPointの利用方法
第10回	プレゼンテーション（2）Microsoft PowerPointの高度な利用方法
第11回	プレゼンテーション（3）プレゼンテーションの実践
第12回	Webページの構造（HTML、CSS、JavaScript）
第13回	HTMLの基本
第14回	CSSの基本
第15回	AI、IoT、デジタルファブリケーション
第16回	期末試験（レポート）

評価方法・評価基準	授業中に適宜課すレポート（60%）、及び期末試験（40%）の評価を合計し到達目標に対する達成度を評価する。詳細な評価項目については、初回講義時にルーブリック（評価基準表）により示す。
-----------	---

教科書	奥村晴彦、森本尚之『基礎からわかる情報リテラシー』〔改訂第4版〕技術評論社、2020年。ISBN 978-4-297-11710-8 https://gihyo.jp/book/2020/978-4-297-11710-8
-----	---

参考書	東京大学 数理・情報教育研究センター 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム リテラシーレベル教材 http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/6university_consortium.html
-----	---

他の科目との関連	本科目は情報技術に関連するすべての科目の基礎となる。
----------	----------------------------

授業時間外学習	予習：事前に教科書を読み関連する情報を調査し内容を把握すると授業時の理解が深まる。 復習：事後には自分の関心に合わせ講義時で示した内容を復習し理解を定着させること。
---------	---

Course Description	Computer Literacy, Internet, Application Software.
--------------------	--

Teaching staff	SUGURI, Hiroki/SUZUKI, Yu/HAGIHARA, Jun/KONYA, Naoki/GOTO, Isao
----------------	---

実務経験のある教員	須栗裕樹、後藤勲
-----------	----------

実務経験をいかした教育内容	実務経験のある教員とない教員が混在しているため、実務経験をいかした教育はしない。
---------------	--

シラバス参照

講義名	コンピューターリテラシー（食産）①
ナンバリング	（基盤）FA-IFST101
Course	Computer Literacy
対象学科	全学群（必修）
年次・学期・単位	1年次／前期／2単位（必修）

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 紺屋 直樹	

授業概要	コンピューターとネットワークの自立した利用者としての基礎的な知識と技能を修得する。情報サービスの利用、調査やレポート、プレゼンテーションなどを学術的な活動として行うために必要な、情報を利用するための技能を獲得する。具体的には、オペレーティングシステムの操作方法、ネットワークとセキュリティ、応用ソフトウェアとしてワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーションを、実習を通じて習得する。更に、WWW、AI、IoT、デジタルファブリケーションの基本を学ぶ。
ディプロマポリシー（DP）との関連	【知識・技術：◎】【思考力・判断力：○】【表現力：○】【主体性：○】【協働性：△】
到達目標	[1] PCの基本的な操作ができる。 [2] 応用ソフトウェアを用いて文書作成、表計算、プレゼンテーションができる。 [3] ネットワーク、セキュリティ、AI、IoT、デジタルファブリケーションを説明できる。

授業計画	
回	内容
第1回	導入、社会で起きている変化、PCの基本設定
第2回	PCの操作方法、ウェブサービスの利用（アカウント、メール、SNS、情報の調べ方）
第3回	文書作成（1）Microsoft Wordの利用方法
第4回	文書作成（2）Microsoft Wordの高度な利用方法
第5回	文書作成（3）文章作成の実践
第6回	表計算（1）Microsoft Excelの利用方法
第7回	表計算（2）Microsoft Excelの高度な利用方法
第8回	表計算（3）Microsoft Excelの実践
第9回	プレゼンテーション（1）Microsoft PowerPointの利用方法
第10回	プレゼンテーション（2）Microsoft PowerPointの高度な利用方法
第11回	プレゼンテーション（3）プレゼンテーションの実践
第12回	Webページの構造（HTML、CSS、JavaScript）
第13回	HTMLの基本
第14回	CSSの基本
第15回	AI、IoT、デジタルファブリケーション
第16回	期末試験（レポート）

評価方法・評価基準	授業中に適宜課すレポート（60%）、及び期末試験（40%）の評価を合計し到達目標に対する達成度を評価する。詳細な評価項目については、初回講義時にルーブリック（評価基準表）により示す。
教科書	奥村晴彦、森本尚之『基礎からわかる情報リテラシー』〔改訂第4版〕技術評論社、2020年。ISBN 978-4-297-11710-8 https://gihyo.jp/book/2020/978-4-297-11710-8
参考書	東京大学 数理・情報教育研究センター 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム リテラシーレベル教材 http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/6university_consortium.html
他の科目との関連	本科目は情報技術に関連するすべての科目の基礎となる。
授業時間外学習	予習：事前に教科書を読み関連する情報を調査し内容を把握すると授業時の理解が深まる。 復習：事後には自分の関心に合わせ講義時で示した内容を復習し理解を定着させること。
Course Description	Computer Literacy, Internet, Application Software.
Teaching staff	SUGURI, Hiroki/SUZUKI, Yu/HAGIHARA, Jun/KONYA, Naoki/GOTO, Isao
実務経験のある教員	須栗裕樹、後藤勲
実務経験をいかした教育内容	実務経験のある教員とない教員が混在しているため、実務経験をいかした教育はしない。

シラバス参照

講義名	コンピューターリテラシー（食産）②
ナンバリング	（基盤）FA-IFST101
Course	Computer Literacy
対象学科	全学群（必修）
年次・学期・単位	1年次／前期／2単位（必修）

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 後藤 勲	食産業学群

授業概要	コンピューターとネットワークの自立した利用者としての基礎的な知識と技能を修得する。情報サービスの利用、調査やレポート、プレゼンテーションなどを学術的な活動として行うために必要な、情報を利用するための技能を獲得する。具体的には、オペレーティングシステムの操作方法、ネットワークとセキュリティ、応用ソフトウェアとしてワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーションを、実習を通じて習得する。更に、WWW、AI、IoT、デジタルファブリケーションの基本を学ぶ。
------	---

ディプロマポリシー（DP）との関連	【知識・技術：◎】 【思考力・判断力：○】 【表現力：○】 【主体性：○】 【協働性：△】
-------------------	---

到達目標	[1] PCの基本的な操作ができる。 [2] 応用ソフトウェアを用いて文書作成、表計算、プレゼンテーションができる。 [3] ネットワーク、セキュリティ、AI、IoT、デジタルファブリケーションを説明できる。
------	--

授業計画

回	内容
第1回	導入、社会で起きている変化、PCの基本設定
第2回	PCの操作方法、ウェブサービスの利用（アカウント、メール、SNS、情報の調べ方）
第3回	文書作成（1）Microsoft Wordの利用方法
第4回	文書作成（2）Microsoft Wordの高度な利用方法
第5回	文書作成（3）文章作成の実践
第6回	表計算（1）Microsoft Excelの利用方法
第7回	表計算（2）Microsoft Excelの高度な利用方法
第8回	表計算（3）Microsoft Excelの実践
第9回	プレゼンテーション（1）Microsoft PowerPointの利用方法
第10回	プレゼンテーション（2）Microsoft PowerPointの高度な利用方法
第11回	プレゼンテーション（3）プレゼンテーションの実践
第12回	Webページの構造（HTML、CSS、JavaScript）
第13回	HTMLの基本
第14回	CSSの基本
第15回	AI、IoT、デジタルファブリケーション
第16回	期末試験（レポート）

評価方法・評価基準	授業中に適宜課すレポート（60%）、及び期末試験（40%）の評価を合計し到達目標に対する達成度を評価する。詳細な評価項目については、初回講義時にルーブリック（評価基準表）により示す。
-----------	---

教科書	奥村晴彦、森本尚之『基礎からわかる情報リテラシー』〔改訂第4版〕技術評論社、2020年。ISBN 978-4-297-11710-8 https://gihyo.jp/book/2020/978-4-297-11710-8
-----	---

参考書	東京大学 数理・情報教育研究センター 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム リテラシーレベル教材 http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/6university_consortium.html
-----	---

他の科目との関連	本科目は情報技術に関連するすべての科目の基礎となる。
----------	----------------------------

授業時間外学習	予習：事前に教科書を読み関連する情報を調査し内容を把握すると授業時の理解が深まる。 復習：事後には自分の関心に合わせ講義時で示した内容を復習し理解を定着させること。
---------	---

Course Description	Computer Literacy, Internet, Application Software.
--------------------	--

Teaching staff	SUGURI, Hiroki/SUZUKI, Yu/HAGIHARA, Jun/KONYA, Naoki/GOTO, Isao
----------------	---

実務経験のある教員	須栗裕樹、後藤勲
-----------	----------

実務経験をいかした教育内容	実務経験のある教員とない教員が混在しているため、実務経験をいかした教育はしない。
---------------	--

シラバス参照

講義名	情報化社会と技術（看護）	
ナンバリング	（基盤）FA-IFST102	
Course	Information Society and Technology	
対象学科	全学群（必修）	
年次・学期・単位	1年次／後期／2単位（必修）	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 須栗 裕樹	
関係資格	保健師・養護教諭	
授業概要	データサイエンスとAIの基礎理論として、情報を処理する仕組み（コンピューターの仕組みとハードウェア）と情報の表現（コンピューテーションとデータ）、情報の計算（プログラミング）と情報の伝達（ネットワーキングとWWW）を学ぶ。また、データとAIの利活用についてのさまざまな側面を学ぶ。	
ディプロマポリシー（DP）との関連	【知識・技術：◎】 【思考力・判断力：○】 【表現力：○】 【主体性：○】 【協働性：△】	
到達目標	[1] 情報を処理する仕組みと情報の表現について説明できる。 [2] 情報の計算と情報の伝達について説明できる。 [3] データとAIの利活用について説明できる。	
授業計画		
回	内容	
第1回	導入、社会で活用されているデータ	
第2回	コンピューターサイエンスとは	
第3回	ハードウェア	
第4回	コンピューテーショナル思考	
第5回	データ	
第6回	プログラミングのテクニック	
第7回	プログラミング言語	
第8回	ネットワーク	
第9回	ウェブサイトとアプリケーションをつくる	
第10回	デジタル世界での振る舞い、データ・AIを扱う上での留意事項	
第11回	ソーシャルメディア、デジタル世界の課題	
第12回	データ・AIの活用領域	
第13回	データ・AI利活用のための技術	
第14回	データ・AI利活用の現場	
第15回	データ・AI利活用の最新動向、コンピューターの未来	
第16回	期末試験（レポート）	
評価方法・評価基準	授業中に適宜課すレポート（50%）、及び期末試験（50%）の評価を合計し到達目標に対する達成度を評価する。詳細な評価項目については、初回講義時にループリック（評価基準表）により示す。	
教科書	ヘレン・コールドウェル他監修、クレール・クイグリー他著、山崎正浩訳『決定版 コンピュータサイエンス図鑑』創元社、2019年。ISBN：978-4-422-41420-1 https://www.sogensha.co.jp/productlist/detail?id=3976	
参考書	東京大学 数理・情報教育研究センター 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム リテラシーレベル教材 http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/6university_consortium.html	
他の科目との関連	前期の「コンピューターリテラシー」を受けて更に進んだ議論を行う。本科目を履修することにより、専門科目における様々な形でコンピューターとネットワークの利用が可能となる。	
授業時間外学習	予習：事前に教科書を読み関連する情報を調査し内容を把握すると授業時の理解が深まる。 復習：事後には自分の関心に合わせ講義時で示した内容を復習し理解を定着させること。	
Course Description	Computer Science, Data Science, Artificial Intelligence	
Teaching staff	SUGURI, Hiroki/USUI, Yoko/KONYA, Naoki/GOTO, Isao	
実務経験のある教員	須栗裕樹、後藤勲	
実務経験をいかした教育内容	実務経験のある教員とない教員が混在しているため、実務経験をいかした教育はしない。	

シラバス参照

講義名	情報化社会と技術（事業）①
ナンバリング	（基盤）FA-IFST102
Course	Information Society and Technology
対象学科	全学群（必修）
年次・学期・単位	1年次／後期／2単位（必修）

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 須栗 裕樹	

授業概要	データサイエンスとAIの基礎理論として、情報を処理する仕組み（コンピューターの仕組みとハードウェア）と情報の表現（コンピューテーションとデータ）、情報の計算（プログラミング）と情報の伝達（ネットワーキングとWWW）を学ぶ。また、データとAIの利活用についてのさまざまな側面を学ぶ。
ディプロマポリシー（DP）との関連	【知識・技術：◎】 【思考力・判断力：○】 【表現力：○】 【主体性：○】 【協働性：△】
到達目標	[1] 情報を処理する仕組みと情報の表現について説明できる。 [2] 情報の計算と情報の伝達について説明できる。 [3] データとAIの利活用について説明できる。

授業計画	
回	内容
第1回	導入、社会で活用されているデータ
第2回	コンピューターサイエンスとは
第3回	ハードウェア
第4回	コンピューテーション思考
第5回	データ
第6回	プログラミングのテクニック
第7回	プログラミング言語
第8回	ネットワーク
第9回	ウェブサイトとアプリケーションをつくる
第10回	デジタル世界での振る舞い、データ・AIを扱う上での留意事項
第11回	ソーシャルメディア、デジタル世界の課題
第12回	データ・AIの活用領域
第13回	データ・AI利活用のための技術
第14回	データ・AI利活用の現場
第15回	データ・AI利活用の最新動向、コンピューターの未来
第16回	期末試験（レポート）

評価方法・評価基準	授業中に適宜課すレポート（50%）、及び期末試験（50%）の評価を合計し到達目標に対する達成度を評価する。詳細な評価項目については、初回講義時にループブック（評価基準表）により示す。
教科書	ヘレン・コールドウェル他監修、クレール・クィグリー他著、山崎正浩訳『決定版 コンピュータサイエンス図鑑』創元社、2019年。ISBN：978-4-422-41420-1 https://www.sogensha.co.jp/productlist/detail?id=3976
参考書	東京大学 数理・情報教育研究センター 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム リテラシーレベル教材 http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/6university_consortium.html
他の科目との関連	前期の「コンピューターリテラシー」を受けて更に進んだ議論を行う。本科目を履修することにより、専門科目における様々な形でのコンピューターとネットワークの利用が可能となる。
授業時間外学習	予習：事前に教科書を読み関連する情報を調査し内容を把握すると授業時の理解が深まる。 復習：事後には自分の関心に合わせ講義時で示した内容を復習し理解を定着させること。
Course Description	Computer Science, Data Science, Artificial Intelligence
Teaching staff	SUGURI, Hiroki/USUI, Yoko/KONYA, Naoki/GOTO, Isao
実務経験のある教員	須栗裕樹、後藤勲
実務経験をいかした教育内容	実務経験のある教員とない教員が混在しているため、実務経験をいかした教育はしない。

シラバス参照

講義名	情報化社会と技術（事業）②
ナンバリング	（基盤）FA-IFST102
Course	Information Society and Technology
対象学科	全学群（必修）
年次・学期・単位	1年次／後期／2単位（必修）

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 薄井 洋子	

授業概要	データサイエンスとAIの基礎理論として、情報を処理する仕組み（コンピューターの仕組みとハードウェア）と情報の表現（コンピューテーションとデータ）、情報の計算（プログラミング）と情報の伝達（ネットワーキングとWWW）を学ぶ。また、データとAIの利活用についてのさまざまな側面を学ぶ。
ディプロマポリシー（DP）との関連	【知識・技術：◎】 【思考力・判断力：○】 【表現力：○】 【主体性：○】 【協働性：△】
到達目標	[1] 情報を処理する仕組みと情報の表現について説明できる。 [2] 情報の計算と情報の伝達について説明できる。 [3] データとAIの利活用について説明できる。

授業計画	
回	内容
第1回	導入、社会で活用されているデータ
第2回	コンピューターサイエンスとは
第3回	ハードウェア
第4回	コンピューテーショナル思考
第5回	データ
第6回	プログラミングのテクニック
第7回	プログラミング言語
第8回	ネットワーク
第9回	ウェブサイトとアプリケーションをつくる
第10回	デジタル世界での振る舞い、データ・AIを扱う上での留意事項
第11回	ソーシャルメディア、デジタル世界の課題
第12回	データ・AIの活用領域
第13回	データ・AI利活用のための技術
第14回	データ・AI利活用の現場
第15回	データ・AI利活用の最新動向、コンピューターの未来
第16回	期末試験（レポート）

評価方法・評価基準	授業中に適宜課すレポート（50%）、及び期末試験（50%）の評価を合計し到達目標に対する達成度を評価する。詳細な評価項目については、初回講義時にループブック（評価基準表）により示す。
教科書	ヘレン・コールドウェル他監修、クレール・クィグリー他著、山崎正浩訳『決定版 コンピュータサイエンス図鑑』創元社、2019年。ISBN：978-4-422-41420-1 https://www.sogensha.co.jp/productlist/detail?id=3976
参考書	東京大学 数理・情報教育研究センター 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム リテラシーレベル教材 http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/6university_consortium.html
他の科目との関連	前期の「コンピューターリテラシー」を受けて更に進んだ議論を行う。本科目を履修することにより、専門科目における様々な形でのコンピューターとネットワークの利用が可能となる。
授業時間外学習	予習：事前に教科書を読み関連する情報を調査し内容を把握すると授業時の理解が深まる。 復習：事後には自分の関心に合わせ講義時で示した内容を復習し理解を定着させること。
Course Description	Computer Science, Data Science, Artificial Intelligence
Teaching staff	SUGURI, Hiroki/USUI, Yoko/KONYA, Naoki/GOTO, Isao
実務経験のある教員	須栗裕樹、後藤勲
実務経験をいかした教育内容	実務経験のある教員とない教員が混在しているため、実務経験をいかした教育はしない。

シラバス参照

講義名	情報化社会と技術（食産）①
ナンバリング	（基盤）FA-IFST102
Course	Information Society and Technology
対象学科	全学群（必修）
年次・学期・単位	1年次／後期／2単位（必修）

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 紺屋 直樹	

授業概要	データサイエンスとAIの基礎理論として、情報を処理する仕組み（コンピューターの仕組みとハードウェア）と情報の表現（コンピューテーションとデータ）、情報の計算（プログラミング）と情報の伝達（ネットワーキングとWWW）を学ぶ。また、データとAIの利活用についてのさまざまな側面を学ぶ。
ディプロマポリシー（DP）との関連	【知識・技術：◎】 【思考力・判断力：○】 【表現力：○】 【主体性：○】 【協働性：△】
到達目標	[1] 情報を処理する仕組みと情報の表現について説明できる。 [2] 情報の計算と情報の伝達について説明できる。 [3] データとAIの利活用について説明できる。

授業計画	
回	内容
第1回	導入、社会で活用されているデータ
第2回	コンピューターサイエンスとは
第3回	ハードウェア
第4回	コンピューテーション思考
第5回	データ
第6回	プログラミングのテクニック
第7回	プログラミング言語
第8回	ネットワーク
第9回	ウェブサイトとアプリケーションをつくる
第10回	デジタル世界での振る舞い、データ・AIを扱う上での留意事項
第11回	ソーシャルメディア、デジタル世界の課題
第12回	データ・AIの活用領域
第13回	データ・AI利活用のための技術
第14回	データ・AI利活用の現場
第15回	データ・AI利活用の最新動向、コンピューターの未来
第16回	期末試験（レポート）

評価方法・評価基準	授業中に適宜課すレポート（50%）、及び期末試験（50%）の評価を合計し到達目標に対する達成度を評価する。詳細な評価項目については、初回講義時にループブック（評価基準表）により示す。
教科書	ヘレン・コールドウェル他監修、クレール・クィグリー他著、山崎正浩訳『決定版 コンピュータサイエンス図鑑』創元社、2019年。ISBN：978-4-422-41420-1 https://www.sogensha.co.jp/productlist/detail?id=3976
参考書	東京大学 数理・情報教育研究センター 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム リテラシーレベル教材 http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/6university_consortium.html
他の科目との関連	前期の「コンピューターリテラシー」を受けて更に進んだ議論を行う。本科目を履修することにより、専門科目における様々な形でのコンピューターとネットワークの利用が可能となる。
授業時間外学習	予習：事前に教科書を読み関連する情報を調査し内容を把握すると授業時の理解が深まる。 復習：事後には自分の関心に合わせ講義時で示した内容を復習し理解を定着させること。
Course Description	Computer Science, Data Science, Artificial Intelligence
Teaching staff	SUGURI, Hiroki/USUI, Yoko/KONYA, Naoki/GOTO, Isao
実務経験のある教員	須栗裕樹、後藤勲
実務経験をいかした教育内容	実務経験のある教員とない教員が混在しているため、実務経験をいかした教育はしない。

シラバス参照

講義名	情報化社会と技術（食産）②
ナンバリング	（基盤）FA-IFST102
Course	Information Society and Technology
対象学科	全学群（必修）
年次・学期・単位	1年次／後期／2単位（必修）

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 後藤 勲	食産業学群

授業概要	データサイエンスとAIの基礎理論として、情報を処理する仕組み（コンピューターの仕組みとハードウェア）と情報の表現（コンピューテーションとデータ）、情報の計算（プログラミング）と情報の伝達（ネットワークとWWW）を学ぶ。また、データとAIの利活用についてのさまざまな側面を学ぶ。
ディプロマポリシー（DP）との関連	【知識・技術：◎】 【思考力・判断力：○】 【表現力：○】 【主体性：○】 【協働性：△】
到達目標	[1] 情報を処理する仕組みと情報の表現について説明できる。 [2] 情報の計算と情報の伝達について説明できる。 [3] データとAIの利活用について説明できる。

授業計画	
回	内容
第1回	導入、社会で活用されているデータ
第2回	コンピューターサイエンスとは
第3回	ハードウェア
第4回	コンピューテーショナル思考
第5回	データ
第6回	プログラミングのテクニック
第7回	プログラミング言語
第8回	ネットワーク
第9回	ウェブサイトとアプリケーションをつくる
第10回	デジタル世界での振る舞い、データ・AIを扱う上での留意事項
第11回	ソーシャルメディア、デジタル世界の課題
第12回	データ・AIの活用領域
第13回	データ・AI利活用のための技術
第14回	データ・AI利活用の現場
第15回	データ・AI利活用の最新動向、コンピューターの未来
第16回	期末試験（レポート）

評価方法・評価基準	授業中に適宜課すレポート（50%）、及び期末試験（50%）の評価を合計し到達目標に対する達成度を評価する。詳細な評価項目については、初回講義時にルーブリック（評価基準表）により示す。
教科書	ヘレン・コールドウェル他監修、クレール・クィグリー他著、山崎正浩訳『決定版 コンピュータサイエンス図鑑』創元社、2019年。ISBN：978-4-422-41420-1 https://www.sogensha.co.jp/productlist/detail?id=3976
参考書	東京大学 数理・情報教育研究センター 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム リテラシーレベル教材 http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/6university_consortium.html
他の科目との関連	前期の「コンピューターリテラシー」を受けて更に進んだ議論を行う。本科目を履修することにより、専門科目における様々な形でのコンピューターとネットワークの利用が可能となる。
授業時間外学習	予習：事前に教科書を読み関連する情報を調査し内容を把握すると授業時の理解が深まる。 復習：事後には自分の関心に合わせ講義時で示した内容を復習し理解を定着させること。
Course Description	Computer Science, Data Science, Artificial Intelligence
Teaching staff	SUGURI, Hiroki/USUI, Yoko/KONYA, Naoki/GOTO, Isao
実務経験のある教員	須栗裕樹、後藤勲
実務経験をいかした教育内容	実務経験のある教員とない教員が混在しているため、実務経験をいかした教育はしない。

シラバス参照

講義名	基礎統計学 I (看護) ①	
ナンバリング	(基盤) FA-IFST103	
Course	Basic Statistics I	
対象学科	食産業学群 (必修)・事業構想学群 (必修)・看護学群 (必修)	
年次・学期・単位	1年次・後期・2単位	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 萩原 潤	
関係資格	保健師・養護教諭	
授業概要	標本であるデータの構造を理解する手法として記述統計を基礎とした解析法を学び、基本統計量を用いて標本データの整理法を理解する。身近な標本データをあげ、その種類の違いを理解し、適した処理法やグラフ・表による整理・表現法を学ぶ。これらを通じて標本の抽出や試行の意義と必要性を理解し、標本分布から母集団の特徴を推測する基礎的な考え方を習得する。同時に、確率変数や確率分布の意義と性質に関する理解を深め、確率的思考法を身に付ける。	
ディプロマポリシー (DP) との関連	【知識・技術：◎】【思考力・判断力：○】【表現力：○】【主体性：○】【協働性：一】	
到達目標	[1] データ構造を理解し、加工や集計しながら傾向を捉えて適切に表現し、説明できる。 [2] 確率的思考を基に確率分布や正規分布を理解し、データとの関係を説明できる。 [3] 標本と母集団の関係を正しく理解し、標本分布を応用し説明できる。	
授業計画		
回	内容	
第1回	集団、変数の分類、度数分布	
第2回	代表値と散布度	
第3回	2変数間の関係	
第4回	集合、順列と組合せ	
第5回	事象と確率	
第6回	ベイズの定理と反復試行の確率	
第7回	確率変数と離散型確率分布	
第8回	二項分布と二項定理	
第9回	連続型確率分布と正規分布	
第10回	確率変数の標準化と二項分布の近似	
第11回	母集団分布と標本分布	
第12回	母比率と標本比率	
第13回	χ^2 分布とその利用	
第14回	t分布とその利用	
第15回	F分布とその利用	
第16回	到達目標の評価 (定期試験)	
評価方法・評価基準	定期試験を実施する。また毎回コメントカードで質問等を受け付け、その内容と参加状況を調査する。講義の節目に課題問題を3回課し (各10%の計30%)、講義への参加状況を踏まえた上で定期試験を課し、その点数 (70%) との合計 (100%) で到達目標への到達度を評価する。詳細は、初回時に基準評価表 (ルーブリック) で説明する。	
教科書	道家・伊藤・宮崎・酒井 (共著) 「はじめての統計学」 コロナ社	
参考書	日本統計学会 (編) 「統計学 I : データ分析の基礎 オフィシャルスタディノート」 日本統計学会	
他の科目との関連	本講義は、データを取り扱う全科目と数量表現 (表やグラフ等) されている部分を理解するための基幹となる重要な科目である。十分に理解できる力を身に付けるには共通して「基礎統計学 II」や情報系科目「情報化社会と技術」や「コンピューターリテラシー」をそれぞれ履修し知識やPC技術を深めること。	
授業時間外学習	講義内で取り扱うサンプルデータについて、毎回学ぶ方法で統計解析を行って復習すること。また、教科書の巻末問題を予習して講義に臨むこと。適宜課題として課す。さらには、それぞれの問題をマイクロソフト「エクセル」を用いて解けるようにすること。	
備考	コメントカードは、毎回の講義の内容に対する質問や意見を記載すること。また、適宜PCを持参し、データ整理や加工作業に慣れること。	
Course Description	Sampling, Data distribution, Probability, Descriptive statistics	
Teaching staff	Yoshihito Suda, Jun Hagihara, Taku Hiraizumi, Kohei Miura, Yutaka Ando, Naoki Konya	
実務経験のある教員	Yoshihito Suda	
実務経験をいかした教育内容	実務経験を活かした技術や研究内容を活かして講義を行う。	

シラバス参照

講義名	基礎統計学 I (看護) ②	
ナンバリング	(基盤) FA-IFST103	
Course	Basic Statistics I	
対象学科	食産業学群 (必修)・事業構想学群 (必修)・看護学群 (必修)	
年次・学期・単位	1年次・後期・2単位	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 平泉 拓	
関係資格	保健師・養護教諭	
授業概要	標本であるデータの構造を理解する手法として記述統計を基礎とした解析法を学び、基本統計量を用いて標本データの整理法を理解する。身近な標本データをあげ、その種類の違いを理解し、適した処理法やグラフ・表による整理・表現法を学ぶ。これらを通じて標本の抽出や試行の意義と必要性を理解し、標本分布から母集団の特徴を推測する基礎的な考え方を習得する。同時に、確率変数や確率分布の意義と性質に関する理解を深め、確率的思考法を身に付ける。	
ディプロマポリシー (DP) との関連	【知識・技術：◎】【思考力・判断力：○】【表現力：○】【主体性：○】【協働性：ー】	
到達目標	[1] データ構造を理解し、加工や集計しながら傾向を捉えて適切に表現し、説明できる。 [2] 確率的思考を基に確率分布や正規分布を理解し、データとの関係を説明できる。 [3] 標本と母集団の関係を正しく理解し、標本分布を応用し説明できる。	
授業計画		
回	内容	
第1回	集団、変数の分類、度数分布	
第2回	代表値と散布度	
第3回	2変数間関係	
第4回	集合、順列と組合せ	
第5回	事象と確率	
第6回	ベイズの定理と反復試行の確率	
第7回	確率変数と離散型確率分布	
第8回	二項分布と二項定理	
第9回	連続型確率分布と正規分布	
第10回	確率変数の標準化と二項分布の近似	
第11回	母集団分布と標本分布	
第12回	母比率と標本比率	
第13回	χ^2 分布とその利用	
第14回	t分布とその利用	
第15回	F分布とその利用	
第16回	到達目標の評価 (定期試験)	
評価方法・評価基準	定期試験を実施する。また毎回コメントカードで質問等を受け付け、その内容と参加状況を調査する。講義の節目に課題問題を3回課し (各10%の計30%)、講義への参加状況を踏まえた上で定期試験を課し、その点数 (70%) との合計 (100%) で到達目標への到達度を評価する。詳細は、初回時に基準評価表 (ルーブリック) で説明する。	
教科書	道家・伊藤・宮崎・酒井 (共著) 「はじめての統計学」 コロナ社	
参考書	日本統計学会 (編) 「統計学 I : データ分析の基礎 オフィシャルスタディノート」 日本統計学会	
他の科目との関連	本講義は、データを取り扱う全科目と数量表現 (表やグラフ等) されている部分を理解するための基幹となる重要な科目である。十分に理解できる力を身に付けるには共通して「基礎統計学 II」や情報系科目「情報化社会と技術」や「コンピューターリテラシー」をそれぞれ履修し知識やPC技術を深めること。	
授業時間外学習	講義内で取り扱うサンプルデータについて、毎回学ぶ方法で統計解析を行って復習すること。また、教科書の巻末問題を予習して講義に臨むこと。適宜課題として課す。さらには、それぞれの問題をマイクロソフト「エクセル」を用いて解けるようにすること。	
備考	コメントカードは、毎回の講義の内容に対する質問や意見を記載すること。また、適宜PCを持参し、データ整理や加工作業に慣れること。	
Course Description	Sampling, Data distribution, Probability, Descriptive statistics	
Teaching staff	Yoshihito Suda, Jun Hagihara, Taku Hiraizumi, Kohei Miura, Yutaka Ando, Naoki Konya	
実務経験のある教員	Yoshihito Suda	
実務経験をいかした教育内容	実務経験を活かした技術や研究内容を活かして講義を行う。	

シラバス参照

講義名	基礎統計学 I (事業) ①	
ナンバリング	(基盤) FA-IFST103	
Course	Basic Statistics I	
対象学科	食産業学群 (必修)・事業構想学群 (必修)・看護学群 (必修)	
年次・学期・単位	1年次・後期・2単位	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 三浦 幸平	
授業概要	標本であるデータの構造を理解する手法として記述統計を基礎とした解析法を学び、基本統計量を用いて標本データの整理法を理解する。身近な標本データをあげ、その種類の違いを理解し、適した処理法やグラフ・表による整理・表現法を学ぶ。これらを通じて標本の抽出や試行の意義と必要性を理解し、標本分布から母集団の特徴を推測する基礎的な考え方を習得する。同時に、確率変数や確率分布の意義と性質に関する理解を深め、確率的思考法を身に付ける。	
ディプロマリング(DP)との関連	【知識・技術：◎】【思考力・判断力：○】【表現力：○】【主体性：○】【協働性：－】	
到達目標	[1] データ構造を理解し、加工や集計しながら傾向を捉えて適切に表現し、説明できる。 [2] 確率的思考を基に確率分布や正規分布を理解し、データとの関係を説明できる。 [3] 標本と母集団の関係を正しく理解し、標本分布を応用し説明できる。	
授業計画		
回	内容	
第1回	集団、変数の分類、度数分布	
第2回	代表値と散布度	
第3回	2変数間の関係	
第4回	集合、順列と組合せ	
第5回	事象と確率	
第6回	ベイズの定理と反復試行の確率	
第7回	確率変数と離散型確率分布	
第8回	二項分布と二項定理	
第9回	連続型確率分布と正規分布	
第10回	確率変数の標準化と二項分布の近似	
第11回	母集団分布と標本分布	
第12回	母比率と標本比率	
第13回	χ^2 分布とその利用	
第14回	t分布とその利用	
第15回	F分布とその利用	
第16回	到達目標の評価 (定期試験)	
評価方法・評価基準	定期試験を実施する。また毎回コメントカードで質問等を受け付け、その内容と参加状況を調査する。講義の節目に課題問題を3回課し(各10%の計30%)、講義への参加状況を踏まえた上で定期試験を課し、その点数(70%)との合計(100%)で到達目標への到達度を評価する。詳細は、初回時に基準評価表(ループリック)で説明する。	
教科書	道家・伊藤・宮崎・酒井(共著)「はじめての統計学」 コロナ社	
参考書	日本統計学会(編)「統計学I: データ分析の基礎 オフィシャルスタディノート」 日本統計学会	
他の科目との関連	本講義は、データを取り扱う全科目と数量表現(表やグラフ等)されている部分を理解するための基幹となる重要な科目である。十分に理解できる力を身に付けるには共通して「基礎統計学II」や情報系科目「情報化社会と技術」や「コンピューターリテラシー」をそれぞれ履修し知識やPC技術を深めること。	
授業時間外学習	講義内で取り扱うサンプルデータについて、毎回学ぶ方法で統計解析を行って復習すること。また、教科書の巻末問題を予習して講義に臨むこと。適宜課題として課す。さらには、それぞれの問題をマイクロソフト「エクセル」を用いて解けるようにすること。	
備考	コメントカードは、毎回の講義の内容に対する質問や意見を記載すること。また、適宜PCを持参し、データ整理や加工作業に慣れること。	
Course Description	Sampling, Data distribution, Probability, Descriptive statistics	
Teaching staff	Yoshihito Suda, Jun Hagihara, Taku Hiraizumi, Kohei Miura, Yutaka Ando, Naoki Konya	
実務経験のある教員	Yoshihito Suda	
実務経験をいかした教育内容	実務経験を活かした技術や研究内容を活かして講義を行う。	

シラバス参照

講義名	基礎統計学 I (事業) ②	
ナンバリング	(基盤) FA-IFST103	
Course	Basic Statistics I	
対象学科	食産業学群 (必修)・事業構想学群 (必修)・看護学群 (必修)	
年次・学期・単位	1年次・後期・2単位	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 安藤 裕	事業構想学群
授業概要	標本であるデータの構造を理解する手法として記述統計を基礎とした解析法を学び、基本統計量を用いて標本データの整理法を理解する。身近な標本データをあげ、その種類の違いを理解し、適した処理法やグラフ・表による整理・表現法を学ぶ。これらを通じて標本の抽出や試行の意義と必要性を理解し、標本分布から母集団の特徴を推測する基礎的な考え方を習得する。同時に、確率変数や確率分布の意義と性質に関する理解を深め、確率的思考法を身に付ける。	
ディプロマリング(DP)との関連	【知識・技術：◎】【思考力・判断力：○】【表現力：○】【主体性：○】【協働性：－】	
到達目標	[1] データ構造を理解し、加工や集計しながら傾向を捉えて適切に表現し、説明できる。 [2] 確率的思考を基に確率分布や正規分布を理解し、データとの関係を説明できる。 [3] 標本と母集団の関係を正しく理解し、標本分布を応用し説明できる。	
授業計画		
回	内容	
第1回	集団、変数の分類、度数分布	
第2回	代表値と散布度	
第3回	2変数間の関係	
第4回	集合、順列と組合せ	
第5回	事象と確率	
第6回	ベイズの定理と反復試行の確率	
第7回	確率変数と離散型確率分布	
第8回	二項分布と二項定理	
第9回	連続型確率分布と正規分布	
第10回	確率変数の標準化と二項分布の近似	
第11回	母集団分布と標本分布	
第12回	母比率と標本比率	
第13回	χ^2 分布とその利用	
第14回	t分布とその利用	
第15回	F分布とその利用	
第16回	到達目標の評価 (定期試験)	
評価方法・評価基準	定期試験を実施する。また毎回コメントカードで質問等を受け付け、その内容と参加状況を調査する。講義の節目に課題問題を3回課し(各10%の計30%)、講義への参加状況を踏まえた上で定期試験を課し、その点数(70%)との合計(100%)で到達目標への到達度を評価する。詳細は、初回時に基準評価表(ループリック)で説明する。	
教科書	道家・伊藤・宮崎・酒井(共著)「はじめての統計学」 コロナ社	
参考書	日本統計学会(編)「統計学I: データ分析の基礎 オフィシャルスタディノート」 日本統計学会	
他の科目との関連	本講義は、データを取り扱う全科目と数量表現(表やグラフ等)されている部分を理解するための基幹となる重要な科目である。十分に理解できる力を身に付けるには共通して「基礎統計学II」や情報系科目「情報化社会と技術」や「コンピューターリテラシー」をそれぞれ履修し知識やPC技術を深めること。	
授業時間外学習	講義内で取り扱うサンプルデータについて、毎回学ぶ方法で統計解析を行って復習すること。また、教科書の巻末問題を予習して講義に臨むこと。適宜課題として課す。さらには、それぞれの問題をマイクロソフト「エクセル」を用いて解けるようにすること。	
備考	コメントカードは、毎回の講義の内容に対する質問や意見を記載すること。また、適宜PCを持参し、データ整理や加工作業に慣れること。	
Course Description	Sampling, Data distribution, Probability, Descriptive statistics	
Teaching staff	Yoshihito Suda, Jun Hagihara, Taku Hiraizumi, Kohei Miura, Yutaka Ando, Naoki Konya	
実務経験のある教員	Yoshihito Suda	
実務経験をいかした教育内容	実務経験を活かした技術や研究内容を活かして講義を行う。	

シラバス参照

講義名	基礎統計学 I (食産) ①	
ナンバリング	(基盤) FA-IFST103	
Course	Basic Statistics I	
対象学科	食産業学群 (必修)・事業構想学群 (必修)・看護学群 (必修)	
年次・学期・単位	1年次・後期・2単位	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 須田 義人	
授業概要	標本であるデータの構造を理解する手法として記述統計を基礎とした解析法を学び、基本統計量を用いて標本データの整理法を理解する。身近な標本データをあげ、その種類の違いを理解し、適した処理法やグラフ・表による整理・表現法を学ぶ。これらを通じて標本の抽出や試行の意義と必要性を理解し、標本分布から母集団の特徴を推測する基礎的な考え方を習得する。同時に、確率変数や確率分布の意義と性質に関する理解を深め、確率的思考法を身に付ける。	
ディプロマリング(DP)との関連	【知識・技術：◎】【思考力・判断力：○】【表現力：○】【主体性：○】【協働性：-】	
到達目標	[1] データ構造を理解し、加工や集計しながら傾向を捉えて適切に表現し、説明できる。 [2] 確率的思考を基に確率分布や正規分布を理解し、データとの関係を説明できる。 [3] 標本と母集団の関係を正しく理解し、標本分布を応用し説明できる。	
授業計画		
回	内容	
第1回	集団、変数の分類、度数分布	
第2回	代表値と散布度	
第3回	2変数間の関係	
第4回	集合、順列と組合せ	
第5回	事象と確率	
第6回	ベイズの定理と反復試行の確率	
第7回	確率変数と離散型確率分布	
第8回	二項分布と二項定理	
第9回	連続型確率分布と正規分布	
第10回	確率変数の標準化と二項分布の近似	
第11回	母集団分布と標本分布	
第12回	母比率と標本比率	
第13回	χ^2 分布とその利用	
第14回	t分布とその利用	
第15回	F分布とその利用	
第16回	到達目標の評価 (定期試験)	
評価方法・評価基準	定期試験を実施する。また毎回コメントカードで質問等を受け付け、その内容と参加状況を調査する。講義の節目に課題問題を3回課し(各10%の計30%)、講義への参加状況を踏まえた上で定期試験を課し、その点数(70%)との合計(100%)で到達目標への到達度を評価する。詳細は、初回時に基準評価表(ループリック)で説明する。	
教科書	道家・伊藤・宮崎・酒井(共著)『はじめての統計学』 コロナ社	
参考書	日本統計学会(編)『統計学I: データ分析の基礎 オフィシャルスタディノート』 日本統計学会	
他の科目との関連	本講義は、データを取り扱う全科目と数量表現(表やグラフ等)されている部分を理解するための基幹となる重要な科目である。十分に理解できる力を身に付けるには共通して「基礎統計学II」や情報系科目「情報化社会と技術」や「コンピューターリテラシー」をそれぞれ履修し知識やPC技術を深めること。	
授業時間外学習	講義内で取り扱うサンプルデータについて、毎回学ぶ方法で統計解析を行って復習すること。また、教科書の巻末問題を予習して講義に臨むこと。適宜課題として課す。さらには、それぞれの問題をマイクロソフト「エクセル」を用いて解けるようにすること。	
備考	コメントカードは、毎回の講義の内容に対する質問や意見を記載すること。また、適宜PCを持参し、データ整理や加工作業に慣れること。	
Course Description	Sampling, Data distribution, Probability, Descriptive statistics	
Teaching staff	Yoshihito Suda, Jun Hagihara, Taku Hiraizumi, Kohei Miura, Yutaka Ando, Naoki Konya	
実務経験のある教員	Yoshihito Suda	
実務経験をいかした教育内容	実務経験を活かした技術や研究内容を活かして講義を行う。	

シラバス参照

講義名	基礎統計学 I (食産) ②	
ナンバリング	(基盤) FA-IFST103	
Course	Basic Statistics I	
対象学科	食産業学群 (必修)・事業構想学群 (必修)・看護学群 (必修)	
年次・学期・単位	1年次・後期・2単位	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	◎ 紺屋 直樹	
授業概要	標本であるデータの構造を理解する手法として記述統計を基礎とした解析法を学び、基本統計量を用いて標本データの整理法を理解する。身近な標本データをあげ、その種類の違いを理解し、適した処理法やグラフ・表による整理・表現法を学ぶ。これらを通じて標本の抽出や試行の意義と必要性を理解し、標本分布から母集団の特徴を推測する基礎的な考え方を習得する。同時に、確率変数や確率分布の意義と性質に関する理解を深め、確率的思考法を身に付ける。	
ディプロマリング(DP)との関連	【知識・技術：◎】【思考力・判断力：○】【表現力：○】【主体性：○】【協働性：-】	
到達目標	[1] データ構造を理解し、加工や集計しながら傾向を捉えて適切に表現し、説明できる。 [2] 確率的思考を基に確率分布や正規分布を理解し、データとの関係を説明できる。 [3] 標本と母集団の関係を正しく理解し、標本分布を応用し説明できる。	
授業計画		
回	内容	
第1回	集団、変数の分類、度数分布	
第2回	代表値と散布度	
第3回	2変数間の関係	
第4回	集合、順列と組合せ	
第5回	事象と確率	
第6回	ベイズの定理と反復試行の確率	
第7回	確率変数と離散型確率分布	
第8回	二項分布と二項定理	
第9回	連続型確率分布と正規分布	
第10回	確率変数の標準化と二項分布の近似	
第11回	母集団分布と標本分布	
第12回	母比率と標本比率	
第13回	χ^2 分布とその利用	
第14回	t分布とその利用	
第15回	F分布とその利用	
第16回	到達目標の評価 (定期試験)	
評価方法・評価基準	定期試験を実施する。また毎回コメントカードで質問等を受け付け、その内容と参加状況を調査する。講義の節目に課題問題を3回課し(各10%の計30%)、講義への参加状況を踏まえた上で定期試験を課し、その点数(70%)との合計(100%)で到達目標への到達度を評価する。詳細は、初回時に基準評価表(ループリック)で説明する。	
教科書	道家・伊藤・宮崎・酒井(共著)『はじめての統計学』 コロナ社	
参考書	日本統計学会(編)『統計学I: データ分析の基礎 オフィシャルスタディノート』 日本統計学会	
他の科目との関連	本講義は、データを取り扱う全科目と数量表現(表やグラフ等)されている部分を理解するための基幹となる重要な科目である。十分に理解できる力を身に付けるには共通して「基礎統計学II」や情報系科目「情報化社会と技術」や「コンピューターリテラシー」をそれぞれ履修し知識やPC技術を深めること。	
授業時間外学習	講義内で取り扱うサンプルデータについて、毎回学ぶ方法で統計解析を行って復習すること。また、教科書の巻末問題を予習して講義に臨むこと。適宜課題として課す。さらには、それぞれの問題をマイクロソフト「エクセル」を用いて解けるようにすること。	
備考	コメントカードは、毎回の講義の内容に対する質問や意見を記載すること。また、適宜PCを持参し、データ整理や加工作業に慣れること。	
Course Description	Sampling, Data distribution, Probability, Descriptive statistics	
Teaching staff	Yoshihito Suda, Jun Hagihara, Taku Hiraizumi, Kohei Miura, Yutaka Ando, Naoki Konya	
実務経験のある教員	Yoshihito Suda	
実務経験をいかした教育内容	実務経験を活かした技術や研究内容を活かして講義を行う。	

宮城大学学則

平成21年4月1日

規則第2号

附 則 (R5.2.22 第196回理事会)

- 1 この規則は、令和5年4月1日から施行する。ただし、第43条の改正規定は、同年2月22日から施行する。
- 2 改正後の別表第一（第33条，第41条関係）の規定は、令和5年度入学者から適用し、令和4年度以前の入学者（この規則の施行の日以後に令和4年度以前の入学者に相当する年次に編入学，転入学又は再入学したものを含む。）については、なお従前の例による。

第2編教育 学則

別表第一 (第33条、第41条関係) 1 看護学群看護学類

科目区分	授業科目	配当年次	単位数			授業形態		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習
基盤教育科目	導入科目							
	スタートアップセミナーⅠ	1前	2			○		
	スタートアップセミナーⅡ	1後	2			○		
	地域フィールドワーク	1前	1			○		
	実践基礎							
	コミュニティ・プランナー概論及び演習	2前		2		○		
	アントレプレナー基礎	1・2集中		2		○		
	情報統計							
	コンピューターリテラシー	1前	2			○		
	情報化社会と技術	1後	2			○		
	基礎統計学Ⅰ	1後	2			○		
	基礎統計学Ⅱ	2前		2		○		
	グローバルコミュニケーション							
	English GatewayⅠ	1前	1				○	
	English Self-ExpressionⅠ	1前	1				○	
	English GatewayⅡ	1後	1				○	
	English Self-ExpressionⅡ	1後	1				○	
	English for Academic Purposes	2前	1				○	
	English Expedition	2前	1				○	
	University English	2後		1			○	
	Academic Writing	2後		1			○	
	Academic Reading	2後		1			○	
	中国語Ⅰ	1・2前		1			○	
	中国語Ⅱ	1・2後		1			○	
	韓国語Ⅰ	1・2前		1			○	
	韓国語Ⅱ	1・2後		1			○	
	スペイン語Ⅰ/SpanishⅠ	1・2前		1			○	
	スペイン語Ⅱ/SpanishⅡ	1・2後		1			○	
	国際日本学/Japanology	1・2後		2		○		
	グローバル・ビジネス/Global Business	1・2後		2		○		
	社会科学							
	憲法	1・2後		2		○		
	政治学概論	1・2後		2		○		
	国際関係論	1・2前		2		○		
	社会と経済	1・2後		2		○		
	現代東北社会論	1・2後		2		○		
	社会の諸相	1・2後		2		○		
	社会と哲学	1・2前		2		○		
	人口学概論	1・2前		1		○		
	文化人類学概論	1・2前		2		○		
	自然科学							
	数理科学	1・2後		2		○		
	生命科学	1・2前		2		○		
	環境学概論	1・2後		2		○		
	地球と宇宙	1・2後		2		○		
	数学概論	1・2前		2		○		
	物理概論	1・2前		2		○		
	化学概論	1・2前		2		○		
	生物概論	1・2前	2			○		
	芸術・人文学							
現代メディアカルチャー論	1・2前		2		○			
美術	1・2後		2		○			
音楽	1・2前		2		○			
美術演習	1・2前		1			○		
音楽演習	1・2後		1			○		
文学	1・2後		2		○			
世界の歴史と文化	1・2前		2		○			
日本の歴史と文化	1・2前		2		○			
東北の歴史と文化	1・2前		2		○			
人と宗教	1・2前		2		○			
人間科学								
心理学	1・2前		2		○			
健康科学	1・2前		2		○			
スポーツ実技	1・2前		1			○		
体を動かす楽しみ	1・2後		1			○		
スポーツ科学	1・2前		1		○			
福祉入門	1・2後		1		○			
食と社会	1・2前		1		○			
留学生対象								
日本語Ⅰ	1前		1			○		
日本語Ⅱ	1後		1			○		
日本語Ⅲ	2前		1			○		
日本語Ⅳ	2後		1			○		
日本事情Ⅰ	1前		2		○			
日本事情Ⅱ	1後		2		○			
全学共通科目								
グローバルインターンシップ	1・2集中			2		○		
学外研修	1・2集中			2		○		

第2編教育 学則

別表第一 (第33条、第41条関係) 2 事業構想学群事業プランニング学類

科目区分	授業科目	配当年次	単位数			授業形態		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習
基盤教育科目	導入科目	スタートアップセミナーⅠ	1前	2			○	
		スタートアップセミナーⅡ	1後	2			○	
		地域フィールドワーク	1前	1			○	
	実践基礎	全学自由ゼミ	1・2集中		1			○
		コミュニティ・プランナー概論及び演習	2前		2		○	
		アントレプレナー基礎	1・2集中		2		○	
	情報統計	コンピューターリテラシー	1前	2			○	
		情報化社会と技術	1後	2			○	
		基礎統計学Ⅰ	1後	2			○	
		基礎統計学Ⅱ	2前	2			○	
	グローバルコミュニケーション	English GatewayⅠ	1前	1				○
		English Self-ExpressionⅠ	1前	1				○
		English GatewayⅡ	1後	1				○
		English Self-ExpressionⅡ	1後	1				○
		English for Academic Purposes	2前	1				○
		English Expedition	2前	1				○
		University English	2後		1			○
		Academic Writing	2後		1			○
		Academic Reading	2後		1			○
		中国語Ⅰ	1・2前		1			○
		中国語Ⅱ	1・2後		1			○
		韓国語Ⅰ	1・2前		1			○
		韓国語Ⅱ	1・2後		1			○
		スペイン語Ⅰ/SpanishⅠ	1・2前		1			○
	スペイン語Ⅱ/SpanishⅡ	1・2後		1			○	
	国際日本学/Japanology	1・2後		2			○	
	グローバル・ビジネス/Global Business	1・2後		2			○	
	社会科学	憲法	1・2後		2			○
		政治学概論	1・2後		2			○
		国際関係論	1・2前		2			○
		社会と経済	1・2後		2			○
		現代東北社会論	1・2後		2			○
		社会の諸相	1・2後		2			○
		社会と哲学	1・2前		2			○
		人口学概論	1・2前		1			○
	文化人類学概論	1・2前		2			○	
	自然科学	数理科学	1・2後		2			○
		生命科学	1・2前		2			○
		環境学概論	1・2後		2			○
		地球と宇宙	1・2後		2			○
		数学概論	1・2前		2			○
		物理概論	1・2前		2			○
		化学概論	1・2前		2			○
		生物概論	1・2前		2			○
	芸術・人文学	現代メディアカルチャー論	1・2前		2			○
		美術	1・2後		2			○
		音楽	1・2前		2			○
		美術演習	1・2前		1			○
		音楽演習	1・2後		1			○
		文学	1・2後		2			○
世界の歴史と文化		1・2前		2			○	
日本の歴史と文化		1・2前		2			○	
東北の歴史と文化	1・2前		2			○		
人と宗教	1・2前		2			○		
人間科学	心理学	1・2前		2			○	
	健康科学	1・2前		2			○	
	スポーツ実技	1・2前		1			○	
	体を動かす楽しみ	1・2後		1			○	
	スポーツ科学	1・2前		1			○	
	福祉入門	1・2後		1			○	
食と社会	1・2前		1			○		
留学生対象	日本語Ⅰ	1前		1			○	
	日本語Ⅱ	1後		1			○	
	日本語Ⅲ	2前		1			○	
	日本語Ⅳ	2後		1			○	
	日本事情Ⅰ	1前		2			○	
	日本事情Ⅱ	1後		2			○	
全学共通科目	グローバルインターンシップ	1・2集中			2		○	
	学外研修	1・2集中			2		○	

第2編教育 学則

別表第一 (第33条、第41条関係) 3 事業構想学群地域創生学類

科目区分	授業科目	配当年次	単位数			授業形態		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習
基盤教育科目	導入科目	スタートアップセミナーⅠ	1前	2			○	
		スタートアップセミナーⅡ	1後	2			○	
		地域フィールドワーク	1前	1			○	
	実践基礎	全学自由ゼミ	1・2集中		1			○
		コミュニティ・プランナー概論及び演習	2前		2		○	
		アントレプレナー基礎	1・2集中		2		○	
	情報統計	コンピューターリテラシー	1前	2			○	
		情報化社会と技術	1後	2			○	
		基礎統計学Ⅰ	1後	2			○	
		基礎統計学Ⅱ	2前	2			○	
	グローバルコミュニケーション	English GatewayⅠ	1前	1				○
		English Self-ExpressionⅠ	1前	1				○
		English GatewayⅡ	1後	1				○
		English Self-ExpressionⅡ	1後	1				○
		English for Academic Purposes	2前	1				○
		English Expedition	2前	1				○
		University English	2後	1				○
		Academic Writing	2後	1				○
		Academic Reading	2後	1				○
		中国語Ⅰ	1・2前	1				○
		中国語Ⅱ	1・2後	1				○
		韓国語Ⅰ	1・2前	1				○
		韓国語Ⅱ	1・2後	1				○
		スペイン語Ⅰ/SpanishⅠ	1・2前	1				○
		スペイン語Ⅱ/SpanishⅡ	1・2後	1				○
	国際日本学/Japanology	1・2後	2				○	
	グローバル・ビジネス/Global Business	1・2後	2				○	
	社会科学	憲法	1・2後	2				○
		政治学概論	1・2後	2				○
		国際関係論	1・2前	2				○
		社会と経済	1・2後	2				○
		現代東北社会論	1・2後	2				○
		社会の諸相	1・2後	2				○
		社会と哲学	1・2前	2				○
		人口学概論	1・2前	1				○
	自然科学	文化人類学概論	1・2前	2				○
		数理学	1・2後	2				○
		生命科学	1・2前	2				○
		環境学概論	1・2後	2				○
		地球と宇宙	1・2後	2				○
		数学概論	1・2前	2				○
		物理概論	1・2前	2				○
		化学概論	1・2前	2				○
	芸術・人文学	生物概論	1・2前	2				○
		現代メディアカルチャー論	1・2前	2				○
		美術	1・2後	2				○
		音楽	1・2前	2				○
		美術演習	1・2前	1				○
		音楽演習	1・2後	1				○
		文学	1・2後	2				○
世界の歴史と文化		1・2前	2				○	
日本の歴史と文化		1・2前	2				○	
東北の歴史と文化		1・2前	2				○	
人間科学	人と宗教	1・2前	2				○	
	心理学	1・2前	2				○	
	健康科学	1・2前	2				○	
	スポーツ実技	1・2前	1				○	
	体を動かす楽しみ	1・2後	1				○	
	スポーツ科学	1・2前	1				○	
留学生対象	福祉入門	1・2後	1				○	
	食と社会	1・2前	1				○	
	日本語Ⅰ	1前	1				○	
	日本語Ⅱ	1後	1				○	
	日本語Ⅲ	2前	1				○	
	日本語Ⅳ	2後	1				○	
全学共通科目	日本事情Ⅰ	1前	2				○	
	日本事情Ⅱ	1後	2				○	
	グローバルインターンシップ	1・2集中		2			○	
学外研修	1・2集中		2			○		

第2編教育 学則

別表第一 (第33条、第41条関係) 4 事業構想学群価値創造デザイン学類

科目区分	授業科目	配当年次	単位数			授業形態		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習
基盤教育科目	導入科目	スタートアップセミナーⅠ				○		
		スタートアップセミナーⅡ				○		
		地域フィールドワーク				○		
	実践基礎	全学自由ゼミ	1・2集中		1		○	
		コミュニティ・プランナー概論及び演習	2前		2		○	
		アントレプレナー基礎	1・2集中		2		○	
	情報統計	コンピューターリテラシー	1前		2		○	
		情報化社会と技術	1後		2		○	
		基礎統計学Ⅰ	1後		2		○	
		基礎統計学Ⅱ	2前		2		○	
	グローバルコミュニケーション	English Gateway Ⅰ	1前		1			○
		English Self-Expression Ⅰ	1前		1			○
		English Gateway Ⅱ	1後		1			○
		English Self-Expression Ⅱ	1後		1			○
		English for Academic Purposes	2前		1			○
		English Expedition	2前		1			○
		University English	2後		1			○
		Academic Writing	2後		1			○
		Academic Reading	2後		1			○
		中国語Ⅰ	1・2前		1			○
		中国語Ⅱ	1・2後		1			○
		韓国語Ⅰ	1・2前		1			○
		韓国語Ⅱ	1・2後		1			○
		スペイン語Ⅰ/Spanish Ⅰ	1・2前		1			○
		スペイン語Ⅱ/Spanish Ⅱ	1・2後		1			○
		国際日本学/Japanology	1・2後		2			○
	グローバル・ビジネス/Global Business	1・2後		2			○	
	社会科学	憲法	1・2後		2			○
		政治学概論	1・2後		2			○
		国際関係論	1・2前		2			○
		社会と経済	1・2後		2			○
		現代東北社会論	1・2後		2			○
		社会の諸相	1・2後		2			○
		社会と哲学	1・2前		2			○
		人口学概論	1・2前		1			○
	自然科学	文化人類学概論	1・2前		2			○
		数理学	1・2後		2			○
		生命科学	1・2前		2			○
		環境学概論	1・2後		2			○
		地球と宇宙	1・2後		2			○
		数学概論	1・2前		2			○
		物理概論	1・2前		2			○
		化学概論	1・2前		2			○
	芸術・人文学	生物概論	1・2前		2			○
		現代メディアカルチャー論	1・2前		2			○
		美術	1・2後		2			○
		音楽	1・2前		2			○
		美術演習	1・2前		1			○
		音楽演習	1・2後		1			○
		文学	1・2後		2			○
		世界の歴史と文化	1・2前		2			○
		日本の歴史と文化	1・2前		2			○
		東北の歴史と文化	1・2前		2			○
	人間科学	人と宗教	1・2前		2			○
		心理学	1・2前		2			○
		健康科学	1・2前		2			○
		スポーツ実技	1・2前		1			○
		体を動かす楽しみ	1・2後		1			○
		スポーツ科学	1・2前		1			○
	留学生対象	福祉入門	1・2後		1			○
		食と社会	1・2前		1			○
		日本語Ⅰ	1前		1			○
		日本語Ⅱ	1後		1			○
		日本語Ⅲ	2前		1			○
		日本語Ⅳ	2後		1			○
		日本事情Ⅰ	1前		2			○
	全学共通科目	日本事情Ⅱ	1後		2			○
		グローバルインターンシップ	1・2集中		2			○
		学外研修	1・2集中		2			○

第2編教育 学則

別表第一 (第33条、第41条関係) 5 食産業学群生物生産学類

科目区分	授業科目	配当年次	単位数			授業形態		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習
基盤教育科目	導入科目	スタートアップセミナーⅠ	1前	2			○	
		スタートアップセミナーⅡ	1後	2			○	
		地域フィールドワーク	1前	1			○	
	実践基礎	全学自由ゼミ	1・2集中		1			○
		コミュニティ・プランナー概論及び演習	2前		2		○	
		アントレプレナー基礎	1・2集中		2		○	
	情報統計	コンピューターリテラシー	1前		2		○	
		情報化社会と技術	1後		2		○	
		基礎統計学Ⅰ	1後		2		○	
		基礎統計学Ⅱ	2前		2		○	
	グローバルコミュニケーション	English Gateway I	1前		1			○
		English Self-Expression I	1前		1			○
		English Gateway II	1後		1			○
		English Self-Expression II	1後		1			○
		English for Academic Purposes	2前		1			○
		English Expedition	2前		1			○
		University English	2後		1			○
		Academic Writing	2後		1			○
		Academic Reading	2後		1			○
		中国語Ⅰ	1・2前		1			○
		中国語Ⅱ	1・2後		1			○
		韓国語Ⅰ	1・2前		1			○
		韓国語Ⅱ	1・2後		1			○
		スペイン語Ⅰ/Spanish I	1・2前		1			○
	スペイン語Ⅱ/Spanish II	1・2後		1			○	
	国際日本学/Japanology	1・2後		2			○	
	グローバル・ビジネス/Global Business	1・2後		2			○	
	社会科学	憲法	1・2前		2			○
		政治学概論	1・2前		2			○
		国際関係論	1・2後		2			○
		社会と経済	1・2前		2			○
		現代東北社会論	1・2後		2			○
		社会の諸相	1・2後		2			○
		社会と哲学	1・2前		2			○
		人口学概論	1・2前		1			○
	文化人類学概論	1・2前		2			○	
	自然科学	数理学	1・2後		2			○
		生命科学	1・2後		2			○
		環境学概論	1・2前		2			○
		地球と宇宙	1・2前		2			○
		数学概論	1・2後		2			○
		物理概論	1・2後		2			○
		化学概論	1・2前		2			○
	生物概論	1・2前		2			○	
	芸術・人文学	現代メディアカルチャー論	1・2前		2			○
		美術	1・2後		2			○
		音楽	1・2後		2			○
		美術演習	1・2後		1			○
		音楽演習	1・2前		1			○
		文学	1・2後		2			○
世界の歴史と文化		1・2前		2			○	
日本の歴史と文化		1・2後		2			○	
東北の歴史と文化	1・2前		2			○		
人間科学	人と宗教	1・2前		2			○	
	心理学	1・2後		2			○	
	健康科学	1・2後		2			○	
	スポーツ実技	1・2後		1			○	
	体を動かす楽しみ	1・2前		1			○	
	スポーツ科学	1・2後		1			○	
留学生対象	福祉入門	1・2前		1			○	
	食と社会	1・2前		1			○	
	日本語Ⅰ	1前		1			○	
	日本語Ⅱ	1後		1			○	
	日本語Ⅲ	2前		1			○	
	日本語Ⅳ	2後		1			○	
全学共通科目	日本事情Ⅰ	1前		2			○	
	日本事情Ⅱ	1後		2			○	
全学共通科目	グローバルインターンシップ	1・2集中			2		○	
	学外研修	1・2集中			2		○	

第2編教育 学則

別表第一 (第33条、第41条関係) 6 食産業学群フードマネジメント学類

科目区分	授業科目	配当年次	単位数			授業形態		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習
基盤教育科目	導入科目	スタートアップセミナーⅠ	1前	2			○	
		スタートアップセミナーⅡ	1後	2			○	
		地域フィールドワーク	1前	1			○	
	実践基礎	全学自由ゼミ	1・2集中		1			○
		コミュニティ・プランナー概論及び演習	2前		2		○	
		アントレプレナー基礎	1・2集中		2		○	
	情報統計	コンピューターリテラシー	1前	2			○	
		情報化社会と技術	1後	2			○	
		基礎統計学Ⅰ	1後	2			○	
		基礎統計学Ⅱ	2前	2			○	
	グローバルコミュニケーション	English GatewayⅠ	1前	1				○
		English Self-ExpressionⅠ	1前	1				○
		English GatewayⅡ	1後	1				○
		English Self-ExpressionⅡ	1後	1				○
		English for Academic Purposes	2前	1				○
		English Expedition	2前	1				○
		University English	2後		1			○
		Academic Writing	2後		1			○
		Academic Reading	2後		1			○
		中国語Ⅰ	1・2前		1			○
		中国語Ⅱ	1・2後		1			○
		韓国語Ⅰ	1・2前		1			○
		韓国語Ⅱ	1・2後		1			○
		スペイン語Ⅰ/SpanishⅠ	1・2前		1			○
	スペイン語Ⅱ/SpanishⅡ	1・2後		1			○	
	国際日本学/Japanology	1・2後		2			○	
	グローバル・ビジネス/Global Business	1・2後		2			○	
	社会科学	憲法	1・2前		2			○
		政治学概論	1・2前		2			○
		国際関係論	1・2後		2			○
		社会と経済	1・2前		2			○
		現代東北社会論	1・2後		2			○
		社会の諸相	1・2後		2			○
		社会と哲学	1・2前		2			○
		人口学概論	1・2前		1			○
		文化人類学概論	1・2前		2			○
		自然科学	数理科学	1・2後		2		
	生命科学		1・2後		2			○
	環境学概論		1・2前		2			○
	地球と宇宙		1・2前		2			○
	数学概論		1・2後		2			○
	物理概論		1・2後		2			○
	化学概論		1・2前	2				○
	生物概論		1・2前	2				○
	現代メディアカルチャー論		1・2前		2			○
	芸術・人文学	美術	1・2後		2			○
		音楽	1・2後		2			○
		美術演習	1・2後		1			○
		音楽演習	1・2前		1			○
		文学	1・2後		2			○
		世界の歴史と文化	1・2前		2			○
		日本の歴史と文化	1・2後		2			○
		東北の歴史と文化	1・2前		2			○
	人と宗教	1・2前		2			○	
	人間科学	心理学	1・2後		2			○
		健康科学	1・2後		2			○
		スポーツ実技	1・2後		1			○
		体を動かす楽しみ	1・2前		1			○
		スポーツ科学	1・2後		1			○
		福祉入門	1・2前		1			○
	留学生対象	食と社会	1・2前	1				○
		日本語Ⅰ	1前		1			○
		日本語Ⅱ	1後		1			○
		日本語Ⅲ	2前		1			○
		日本語Ⅳ	2後		1			○
		日本事情Ⅰ	1前		2			○
	全学共通科目	日本事情Ⅱ	1後		2			○
		グローバルインターンシップ	1・2集中			2		○
		学外研修	1・2集中			2		○

第1編組織運営 基盤教育群運営等規程

宮城大学基盤教育群運営等規程

平成29年4月1日

規程第155号

(趣旨)

第1条 この規程は、公立大学法人宮城大学基本規則（平成21年宮城大学規則第1号。以下「基本規則」という。）第32条第1項の規定に基づき置かれる基盤教育群の組織、運営等に関し必要な事項を定めるものとする。

(基盤教育の意義)

第2条 基盤教育とは、宮城大学（以下「本学」という。）の共通の教育基盤として、人間力を高めるとともに、広く、かつ、深く学び続ける力を養成し、将来にわたって明日の姿を見通す力身につけるための技法知、学問知及び実践知を育むために、本学が全学体制で行う教育をいう。

(基盤教育群の役割)

第3条 基盤教育群は、基盤教育の運営及び実施の中心的な業務を担い、基盤教育の質的向上及び充実を図るものとする。

(基盤教育群教授会)

第4条 基本規則第32条第2項の規定により置かれる基盤教育群教授会（以下「教授会」という。）

は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。

一 基盤教育科目の単位認定に関すること。

二 基盤教育科目のカリキュラムの編成及び運用に関すること。

三 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び基盤教育群長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる基盤教育群の教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(教授会の構成等)

第5条 教授会は、基盤教育群の主たる教育を担当する専任教員である教授、准教授、講師及び助教並びに学長が必要と認める本学の教員をもって構成する。

2 教授会は、単位の認定の審議に当たっては、基盤教育科目を担当する全ての専任の教員を前項の構成員に加えて構成するものとする。

(招集及び議長)

第6条 教授会は、基盤教育群長（以下「群長」という。）が招集する。

2 群長は、教授会の構成員の4分の1以上の者から審議事項を示して開催の請求があったときは、教授会を招集しなければならない。

3 教授会に議長を置き、群長をもって充てる。

第1編 組織運営 基盤教育群運営等規程

- 4 議長は、教授会を主宰する。
- 5 議長に事故あるときは基盤教育副群長（以下「副群長」という。）がその職務を代理し、議長が欠員のときは副群長がその職務を行う。

（定足数及ぶ表決）

第7条 教授会は、構成員の3分の2以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

- 2 教授会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（構成員以外の者の出席）

第8条 群長が必要と認めるときは、教授会に構成員以外の者の出席を求め、その説明又は意見を聴くことができる。

- 2 学長は、特に必要がある場合には、教授会に出席することができる。

（議事録の作成等）

第9条 議長は、議事録を作成し、これを公表するものとする。

- 2 群長は、教授会の議事について学長に報告するものとする。

（規程の改廃）

第10条 この規程の改廃は、教育研究審議会の議を経て行うものとする。

（委任）

第11条 この規程に定めるもののほか、基盤教育群の運営等に関し必要な事項は、教授会の議を経て群長が定める。

附 則（H29.3.22 第120回理事会）

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（H30.8.29 第139回理事会）

この規程は、平成30年8月29日から施行する。

附 則（R5.6.28 第200回理事会）

この規程は、令和5年6月28日から施行する。

宮城大学カリキュラムセンター運営規程

平成30年4月1日

規程第163号

(趣旨)

第1条 この規程は、公立大学法人宮城大学基本規則（平成21年宮城大学規則第1号。以下「規則」という。）第38条第1項の規定により置かれるカリキュラムセンター（以下「センター」という。）の組織、管理運営等に関し、規則第38条第5項の規定により、必要な事項を定めるものとする。

(所掌事項)

第2条 センターの所掌事項は、次のとおりとする。

- 一 教育課程編成・実施の方針に関する事。
- 二 卒業認定・学位授与の方針に関する事。
- 三 教育内容の研究、開発等に関する事。
- 四 ラーニングコモンズの運営に関する事。
- 五 地域連携実践教育プログラムの推進に関する事。
- 六 その他センターの目的の達成のために必要な業務に関する事。

(センター長等)

第3条 センター長は、センターの事務を掌理する。

- 2 副センター長は、センター長を補佐するとともに、センター長に事故があるときはその職務を代理し、センター長が欠員の時はその職務を行う。
- 3 センター長及び副センター長の任期は1年とし、再任を妨げない。

(運営委員会)

第4条 センターの運営について協議するため、運営委員会を置く。

- 2 運営委員会は、次に掲げる事項について協議する。
 - 一 センターの業務及び事業の計画並びに実施に関する事。
 - 二 その他センターの運営管理に関する事。
- 3 運営委員会は、次に掲げる者をもって組織する。
 - 一 センター長及び副センター長
 - 二 各学群及び基盤教育群から推薦された者
 - 三 コモンズ運営室長
 - 四 地域連携実践教育推進室長
 - 五 その他センター長が必要と認める者
- 4 運営委員会の委員長は、センター長をもって充てる。

(運営委員の任期)

第5条 前条第3項第2号及び第5号に掲げる委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(コモンズ運営室)

第6条 センターに、規則第38条第2項の規定により、コモンズ運営室を置く。

第1編 組織運営 宮城大学カリキュラムセンター運営規程

- 2 コモンズ運営室は、第2条第4号に掲げる事項を分担することとし、当該事項について必要な協議及び検討を行い、その結果をセンター長に報告するものとする。なお、センターの運営に関わる重要事項を決定する場合には、センターの運営委員会の承認を得るものとする。
- 3 コモンズ運営室は、次に掲げる者をもって組織する。
 - 一 室長及び副室長
 - 二 その他室長が必要と認める者
- 4 室長は、コモンズ運営室の事務を掌理する。
- 5 副室長は、室長を補佐するとともに、室長に事故があるときはその職務を代理し、室長が欠員の時はその職務を行う。
- 6 副室長は、室長が職員の中からセンター長の同意を得て指名し、学長の申出に基づき理事長が任命する。
- 7 第3項に掲げる者の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、補欠者の任期は、前任者の残任期間とする。

(地域連携実践教育推進室)

- 第6条の2 センターに、規則第38条第2項の規定により、地域連携実践教育推進室を置く。
- 2 地域連携実践教育推進室は、第2条第5号に掲げる事項を分担することとし、当該事項について必要な協議及び検討を行い、その結果をセンター長に報告するものとする。なお、センターの運営に関わる重要事項を決定する場合には、センターの運営委員会の承認を得るものとする。
 - 3 地域連携実践教育推進室は、次に掲げる者をもって組織する。
 - 一 室長及び副室長
 - 二 その他室長が必要と認める者
 - 4 前条第4項から第7項までの規定は、地域連携実践教育推進室の室長、副室長その他室長が必要と認める者について準用する。

(報告)

- 第7条 センター長は、センターの業務の運営について、随時、学長に報告するとともに、定期的に教育研究審議会に報告しなければならない。
- 2 学長は、前項の報告内容について定期的に理事長に報告するものとする。

(庶務)

- 第8条 センターの庶務は、事務局学務課において行う。

(規程の改廃)

- 第9条 この規程の改廃は、運営委員会及び教育研究審議会の議を経て行うものとする。

(委任)

- 第10条 この規程に定めるもののほか、センターの運営等に関し必要な事項は、センター長が運営委員会に諮って定めるものとする。

附 則 (H30.5.23 第137回理事会)

(施行期日)

- 1 この規程は、平成30年5月23日から施行し、平成30年4月1日から適用する。
(学部に係る経過措置)

第1編組織運営 宮城大学カリキュラムセンター運営規程

- 2 この規程の施行の日から学部在籍者が当該学部在籍しなくなる日の属する年度の末日までの間における公立大学法人宮城大学カリキュラムセンター運営規程第4条第3項第2号の規定の適用については、「各学群」とあるのは、「各学群、各学部」と読み替えるものとする。

附 則 (H31. 4. 17 教育研究審議会)

(施行期日)

- 1 この規程は、平成31年4月17日から施行し、平成31年4月1日から適用する。

附 則 (R3. 3. 24 第172回理事会)

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

附 則 (R5. 10. 25 第204回理事会)

この規程は、令和5年10月25日から施行する。

大学等名	宮城大学
教育プログラム名	宮城大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム (MYU-MDASH)

申請レベル	リテラシーレベル
申請年度	令和 6 年度

取組概要

プログラム名：宮城大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム (MYU-MDASH)

目的：現代社会において必須となるAIやビッグデータを活用する知識やスキルを、情報科学やコンピューター工学、統計学といった視点から学ぶ。大学生あるいは社会人としてコンピューターやネットワークを学術的、実践的に使いこなし、様々なデータに対して正しい知識と解析技術をもって妥当な解釈を得る能力を身につける。

- 身に付けられる能力：
- ・PCやアプリケーションの基本操作、インターネットを用いた情報収集など基礎的な知識や技能
 - ・データサイエンスとAIの基礎理論と応用分野を理解し、説明できる能力
 - ・ハードウェア、プログラミング、ネットワーク等情報工学の知識データ構造を理解し、説明できる能力
 - ・記述統計を基礎とした解析法を学び、基礎統計手法を用いて標本データの整理と分析ができる能力

構成科目：①コンピューターリテラシー 1年前期 看護1、事業構想2、食産業2クラス
 ②情報化社会と技術 1年後期 看護1、事業構想2、食産業2クラス
 ③基礎統計学Ⅰ 1年後期 看護2、事業構想2、食産業2クラス
 いずれも令和4年度開設、基盤教育全学必修科目、全15回、2単位

修了要件：上記3科目（全学必修科目）を修得すること
 対象：全学必修 定員：看護学群90名、事業構想学群200名、食産業学群125名
 体制：運営・改善＝基盤教育群 点検・評価＝カリキュラムセンター

